

「新しい時代に対応する学校管理職マネジメント研修」

調査の概要

◆学校マネジメントの課題認識

- ・学校は「現状把握」が弱い
- ・目標の共有・妥当性が不十分
- ・資源を有効に活用した方策が不十分

◆調査研究の目的

- ・学校管理職の組織運営能力を向上させる。
「企業型から公務員型へ」の転換

◆調査研究の方法

- ・教育行政トップリーダーセミナーのテキストを元に、学校管理職用テキストを作成し、研修を行うことにより、受講者の反応を調査し、より効果的になるよう改善を行うとともに、指導者養成を行う。

◆調査対象（12地域延べ2,435人）

- ・北海道（小・中・高・特支副校長，教頭，校長，463人）
- ・福井県（小・中・高新任教頭，366人）
- ・長野県（小・中・特支校長，469人）
- ・三重県（小・中・高新任校長，310人）
- ・沖縄県（小・中校長，指導主事，77人）
- ・函館市（小・中校長，教頭，122人）
- ・さいたま市（指導主事，39人）
- ・新潟市（指導主事，24人）
- ・浜松市（小・中校長，218人）
- ・神戸市（幼・小・中・高・特支2年目校園長，150人）
- ・延岡市（小・中校長，114人）
- ・沖縄県市町村連合会（小・中校長，指導主事，83人）

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

能力開発型テキスト

考え方を学び、応用力を身につける

①学校マネジメントの転換

従来のマネジメントから

①ビジョンの提示→②現状把握→③ギャップを埋めるための方策・実施

地域住民の意向(民意)を反映した公共性の高い学校固有(公務員型)のマネジメントへ

①現状把握(民意の反映)→②ビジョンの提示→③目標達成のための方策・実施

②対症療法から課題解決へ

知識経験による対処から、

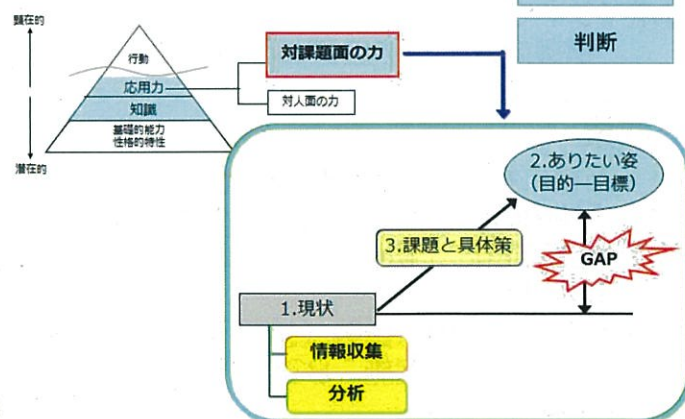
知識経験+客観的データによる対課題力へ

- ・自分の思考の特徴を知る。
- ・各校でのマネジメントにつながる考え方を学ぶワークにより、知識・経験からだけでなく、客観的・理論的な考え方を学ぶ。

◆成果

- ・受講者の認識の枠組みや物の見方・考え方(視点)を客観化・相対化
- ・原因分析の具体的手法を理解し、一定程度習得
- ・6つのプログラムの完成(情報収集から判断まで)
- ・研修講師の育成

〔情報収集〕8人13コマ，〔分析〕7人18コマ，〔構想〕5人8コマ，〔企画〕2人2コマ



今後の課題

◆研修継続受講への支援

- ・研修講師の育成(情報収集から判断まで)
- ・学校管理職リーダーシッププログラムの構築
- ・教員用マネジメントプログラムの構築